2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470300615	事業の開始年月日	平成16年10月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	医療法人社団　伊純会		
事業所名	グループホーム　シエル　西横浜		
所在地	（　220-0061　） 神奈川県横浜市西区久保町2-11 ラ・トゥール西横浜101・201		
サービス種別 定員等	■　認知症対応型共同生活介護	定員　計　17　名 ユニット数　2　ユニット	
自己評価作成日	令和3年9月18日	評価結果 市町村受理日	令和3年12月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

最寄り駅の西横浜駅より徒歩７分と近く面会や外出に便利です。
ホーム周辺には商店街があり散歩や買い物も気軽に出かけられます。
７階建ての１階、２階、屋上を占有施設としており屋上で外気浴を行っております。
職員には介護福祉士資格者が勤務年数も長いため、入居者と馴染みの関係が築けております。
法人代表の医師が２４時間オンコール対応しております。
近隣保育園の誕生会に毎月参加し、秋には工作交流、冬にはお遊戯機の披露を施設に園児を招いて交流を行っております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル３階		
訪問調査日	令和3年10月21日	評価機関 評価決定日	令和3年11月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相鉄線の「西横浜」駅から徒歩で７～８分、国道１号線からも３０ｍ程の交通至便な場所にあります。７階建てのマンションの１～２階にある１７室のグループ・ホームで、屋上の使用も可能です。医療法人伊純会が経営しています。
＜優れている点＞
地域密着型介護サービス事業として、自治会・地元商店街・寺院附属保育園など地域との連携が良く出来ています。事業所から至近距離に居住の自治会会長から、地元の情報や防災活動の支援をを受けたり、関係者や団体の紹介など、きめ細かい応援を受けています。日頃から利用者家族とのコミュニケーションを大切にし、利用者の急変時や事業所の様々な状況変化に際して、家族からの理解や連携が円滑に出来るように努めています。就業時間など職場環境への配慮により、職員定着率が高いことも特徴です。法人が病院を経営しており、２４時間の医療連携体制が整っています。
＜工夫点＞
帰宅願望などの夕暮れ症候群は、朝からの心身の疲れが起因しているのではないかとの仮説に立って、昼食後の午睡の時間を設けたところ、かなり良い効果が出ています。これは同時に職員のレスパイト（休息）にもなり、午睡後の支援活動にも良い効果が出ています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
Ⅰ 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
Ⅴ アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム　シエル　西横浜
ユニット名	１階

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）		1，ほぼ全ての利用者の
		○	2，利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1，毎日ある
			2，数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 （参考項目：36,37）		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
		○	3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）		1，ほぼ全ての家族と
		○	2，家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1，ほぼ毎日のように
			2，数日に1回程度ある
		○	3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1，大いに増えている
		○	2，少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）		1，ほぼ全ての職員が
		○	2，職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1，ほぼ全ての家族等が
			2，家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲示し、常に皆が意識し実践につなげている。	事業所理念の「その人らしさの尊重…ゆっくり急がず…地域に密着したサービスを…」は法人の基本理念ＳＫＹ[スロー・カインド・ユアセルフ]に沿って作成されています。自治会との協力関係や商店街での買い物・外食など地域に密着した暮らしを支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、地域の人々と交流の機会があれば積極的に参加している。	久保町第４自治会に加入し、自治会会長とは連絡を密にして協力関係を築いています。コロナ禍前は商店街の祭りや子供会の行事に参加し、保育園児の来訪もありました。管理者は区の４つのグループホームと連携して、認知症講座の講師を務めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	散歩や外食などを通じて、理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者の生活、サービス内容を報告し、参加者の意見を、今後のサービス向上に活かしている。	今年度はコロナ禍により書面による運営推進会議を２か月に１回実施しています。サービス内容や行事予定、ヒヤリハット・事故報告などについて自治会会長には手渡しで、地域包括支援センターには郵送で意見を聞いています。感染症に関する質問や相談などのやり取りをしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者と日頃から連絡を取り、ホームの実情などを積極的に伝え、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議で地域包括支援センターの職員から研修会などの情報や運営に関する意見・アドバイスを受けています。市高齢者グループホーム連絡会では、情報・意見交換をして連携を図っています。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が身体拘束の対象となる具体的な行為を正しく理解し、毎月のミーティングで確認を実施し、身体拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束に関しては内部研修やミーティングで事例検討し、何が拘束にあたるかを話し合っています。夕方になると不穏になる利用者がいたことから昼食後、フロアの照明を消して午睡の時間を設けました。ゆっくり休息することで帰宅願望など「夕暮れ症候群」に陥る利用者はいなくなりました。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	日々のケアで気になること等があれば、その都度話し合い、スタッフ間で、虐待が見過ごされないように注意をはらい、虐待防止に努めている。	外部研修を受講した職員は報告書にまとめて、研修内容をミーティングで話し、職員全員で共有しています。虐待は職員全員の責任と考え、介助中アザなどを発見したらすぐ報告し、話し合っています。管理者は職員のストレスケアを大事にしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関して学び制度の理解と活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	話しやすい関係作りや雰囲気作りをし利用者や家族等の意見や要望を伺いそれらを運営に反映させている。	毎年、クリスマス会終了後、家族会を開き、意見・要望を聞いています。コロナ禍では、玄関ホールをパーテーションで仕切って面会に対応し、食べ物の差し入れなど直接的に要望を受けています。管理者は家族に電話で近況報告をする際、要望も聞いています。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ご意見ノートを設置していて、意見や提案など自由に書くことが出来、ミーテイングで内容を話し合い意見交換の機会を設けている。	職員は「ご意見ノート」にケアに関する提案を記入しています。トイレ介助の回数、夜間のポータブルトイレの設置などミーティングで検討し反映に繋げています。管理者は、年に１度個人面談を行い、自己評価シートを基に職員の意見や要望を聞いています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休や資格手当てがある。	管理者は定期的に法人本部に出向いて運営状況などを報告し、要望を述べています。毎月、会計分析データが本部から送信されています。資格取得制度はありますが、現在支援を利用している職員はいません。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修には順番に参加し、報告書で他の職員にも内容の周知を行っている。	外部研修にはその時の「研修テーマ」に合った職員が参加し、全職員が様々なテーマの研修を受講出来るよう図らっています。市高齢者グループホーム連絡会での交換研修に参加しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	交換研修の制度がある。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に御本人と面談を行っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に面談を行い、要望や不安なことに耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族の情報から必要なサービスを見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事の支援や掃除や洗濯といった家事を共に行い、支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の暮らしぶりやご様子を写真等で毎月家族に報告し、家族の絆を大切にしながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人からの手紙や電話を取り次ぎ関係が途切れないように支援している。面会はコロナ禍においては、思うように出来ていない。	入居時、馴染みの人や場所について家族や本人から聞き取り、関係の継続を支援しています。以前は近所の人や知人の来訪もありましたが、コロナ禍の今は電話や手紙での継続支援をしています。周辺を散歩したり、ドライブで車窓から馴染みの景色を眺めています。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格を理解し利用者同士の係わり合いに職員も参加してお互いが支えあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて相談や支援を行っている		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話をさりげなく傾聴し、希望や意向の把握に努めている。困難な場合には職員でモニタリングを行い、本人本位に検討している。	さり気無い、取り留めのない会話の中や、ふと出てくる思いを汲み取るように意識し、質問調ではない、思い出話などの会話を心掛けています。課題が出てきたら職員同士で話し合って、出来る限りの対策を検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人のお話や家族や前施設からの情報を基にこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	１日の過ごし方を生活記録に残し現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向、医師、看護師の助言を基に職員でモニタリングを行い、より良く生活できるよう介護計画に反映し作成している。	日常の様子や変化はその都度「生活記録」としてｉｐａｄに入力し、職員間で情報を共有しています。毎月のフロアーミーテイングでモニタリングを行い、家族・医師・看護師の意見を参考にしながら、６ヶ月毎にケアプランの見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に生活記録として記入し、情報の共有に努め、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	体調の変化や悪化等があれば医師、看護師ト連携し、柔軟な支援やサービスが行えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	訪問マッサージや訪問理美容、訪問歯科、ボランテイア等地域資源を活用し安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るように支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望を尊重し、納得のいく病院を受診していただき、適切な医療が受けられるように支援している。	歯科医以外は法人の診療所が担当し、２４時間の医療連携体制がとられています。医師が２週毎に看護師が毎週来訪します。かかりつけ医の選択は自由ですが、通院は家族対応です。診断結果の報告は必ず受けています。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常のケアの中で起こる疑問点や、気付きなどをメモしておき訪看時に適切にアドバイスや助言を受けられるように心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提出するなど、医療機関と情報交換を行い、退院時の相談に応じる等病院関係者との関係作りを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族、本人の希望を聞いて出来る事を充分に説明し納得の行く終末期を送れるようにチームとして支援に取り組んでいる。	入居時に重度化対応や看取り介護について説明し、家族と文書で確認をしています。見取り実績が数例ありますが、ターミナルケアは管理者が常に最後まで責任を持ち立ち会っています。家族が宿泊で介護することも可能となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルがあり、全ての職員が実践できるように努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を行っており、自治会に名簿を提出し、地域との協力体制を築いている。	防災訓練は年２回、夜間想定も行っています。１回は、車で５分の距離の横浜西消防署の指導を受けています。自治会に名簿を渡し、避難者確認を依頼しています。地震はビル内で待機します。食料・水の備蓄は３日以上、コンロ・ランプ・充電器の準備もあります。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、言葉使いや言い方に配慮している。	言葉遣いは、利用者と職員の関係性を重視しつつ、敬意を失わない範囲でフランクさも大切にしています。名前の呼び方は家族の意見を聞き、状況判断しながら使い分けています。掃除や洗濯物の手伝いなどでは、本人の判断・自己決定を尊重しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	それぞれの性格を把握し、その方に合った声掛けをし、自己決定出るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の体調を考慮しながら、一人ひとりのペースに合わせた生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔を保ちながら、その人が好きな服を着て気に入ったものを身につけられるように支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	その日のメニューを伝えたり、月に一度の出前の日には食べたい物を聞き、食事を楽しんでもらう。できる方には配膳、下膳や食器拭きなども手伝ってもらう。	食材・メニューは専門業者に委託し、料理は職員の輪番制です。月に一度の出前料理が皆の楽しみとなっています。コロナ禍で中止していた家族との外食も再開の予定です。高齢化で料理手伝いは難しくなり、出来る人は自主的に下膳・食器拭きの手伝いをしています。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士の作成したメニューの配色サービスを利用している。一人ひとりに合わせた食事形態で提供し、食事量や水分量が一日を通して確保出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアの誘導や介助を個々の力に応じて行っている。希望者には訪問歯科の受診も行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを理解し、その方に応じた支援を行っている。	９割が歩行可能で立上り動作などで便意を察し、トイレ誘導をしています。夜間に排尿確認の場合は、不快感やかぶれ防止を優先し、睡眠中のオムツ交換も行います。３日を目途に便秘管理もしています。浣腸や摘便に至る前に、看護師の調剤で対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェック表を活用し、排便パターンを把握し、水分摂取や、運動などの声掛けなど個々に応じた、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調を考慮し順番に入浴していただいている。菖蒲湯やゆず湯といった季節感も取り入れたりして、気持ちよく入浴できるように工夫している。	３日に１回の入浴です。入浴時間を充分に取り、ゆっくりと入っています。長湯の人、シャワーだけの人、入浴を渋る人など、それぞれに対応しています。必要な場合は入浴後に保湿剤を塗布しています。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活リズムや体調に応じて休息したり安眠できるように寝具を清潔にする等して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別に服薬表をファイルして服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活暦や力に合わせた家事手伝いやレクリエーション行い、気分転換を図れるように支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現状は自由な外出が制限されており、難しい状況であるが、ドライブや、ホーム周辺の散歩等できる限り出かけられるように支援している。	コロナ禍で頻度は減っていますが、近くの商店街への職員の買い物に同行し、足を延ばして久保町公園まで行きます。８人乗りのバンで、中華街やみなとみらいへのドライブもしています。家族との外出は現状は抑え気味となっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理できる人がいない。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や知人からの電話は本人に直接取り次ぎ、手紙等は本人に渡して部屋に飾ったりしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節にちなんだ壁紙の作成や、出前の写真等を掲示して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングの温度・湿度の調整には常に気を配り、この冬には加湿器を増設します。日に２回の掃除と同時に風通しをしています。レクリエーション係が作成の季節の飾り物を壁に展示しています。リビングには地震時に移動して危険な重量物は置いていません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ベンチやソファを置き、自由に座ったり、空いている席ならば自由に移動して、隣の方と気軽に話ができるような居場所の工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や寝具、家族の写真等を飾り、以後後地よく生活できるよう工夫している。	ベッド・防炎カーテン・クローゼットは備え付けですが、自宅で使用のベッドを持ち込む人もいます。掃除は週に２回、リネン類の選択は月に１回以上、天気の良い日に布団の日干しをします。冬場は濡れタオルを干して、室内の湿度を調整しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室やトイレには案内表示や名札をつけて、分かりやすくしている。また、安全に移動できるように動線や家具の配置を考えて、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

事業所名	グループホーム　シエル　西横浜
ユニット名	２階

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）		1，ほぼ全ての利用者の
		○	2，利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1，毎日ある
			2，数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 （参考項目：36,37）		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
		○	4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）		1，ほぼ全ての家族と
		○	2，家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1，ほぼ毎日のように
			2，数日に1回程度ある
			3．たまに
		○	4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1，大いに増えている
			2，少しずつ増えている
		○	3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）		1，ほぼ全ての職員が
		○	2，職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1，ほぼ全ての家族等が
		○	2，家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関に提示し常に目に入り実践につなげるよう心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会、商店街会に入り日常的に交流をしている。コロナ禍で出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	見学、相談等いつでも受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者の状況、サービス内容など報告し、そこで出た意見をサービスに活かせるように心掛けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区役所とは他のホームと一緒に年に一度、意見交換会を開き協力関係を築くように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体的拘束等になる行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。定期的にミーティング等で拘束の見直しをスタッフ間で話し合い改善に努めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法について学ぶ機会を持ち虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関して学び制度の活用を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約について十分な説明をし、改定等の際は、その都度説明し同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	話をしやすい関係づくりをして、意見要望等を伺い運営に反映していけるよう努める。アンケートも定期的にあり意見を知ることができる。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ご意見ノートという意見などを書くノートがあり、月１回のミーティングでそれをもとに話をして意見や提案を反映させている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ストレスチェックなどをおこなっている。就業環境の整備に努めている。勤続年数の長いスタッフが多い。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	今は研修も中止になっているが法人内外の研修を受ける機会を確保し、育てる取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	横浜市グループホーム連絡会に入っているが、コロナ禍で研修もなく交流も今は出来ていない。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	いろいろ話を伺い本人が安心し、信頼してもらえるよう関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	いろいろ話を伺い、家族が安心して信頼してもらえるように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期対応の段階でまず、必要としている支援を見極め他のサービス利用へつなぐなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	年長者として敬い、学ぶことも多く支え合う関係である。お手伝いや好きなことを、各利用者の身体状況気持ちに合わせて個々に支援できるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族の関係を大切にして共に本人を支えている関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	関係継続の支援に努めているが、コロナ禍で今はなかなか出来ていない。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の利用者様の性格を理解し、利用者同士の関わり合い、支え合えるようスタッフが間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要があれば関係性を大切にしている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや意向の把握に努めその人らしく暮らせるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時の面談や入所して日々の会話の中で伺い、今までの暮らし方、個人記録を確認し、また本人が家族とのコミュニケーションの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の体調や生活リズムを把握し、様子を見て入浴、食事、レクリエーションなどしえんしている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の生活の中で本人が抱えている課題とケアのあり方について現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入してスタッフ間で情報を共有しより良い介護サービスができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	出来るだき柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアの受け入れ・訪問理美容・訪問歯科などを活用し支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	納得が得られたかかりつけ医に受診して頂いている。また事業所と良い関係を築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回訪問看護師が来るので個々の利用者様の状態を報告し異変を見逃さず適切な受診や看護を受けれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院医療機関と情報交換を行い、入退院がスムーズに行くように協力している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時にも話をして、実際に重症化した場合に事業所で出来ることを十分に説明し本人・家族が納得できる終末期を迎られるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルがあり、緊急時に備えている。新規スタッフも多いので実践力を付けれるよう訓練が必要。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	色々な災害対策として避難訓練を適宜行っている。町内会を協力体制が出来ている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人権を尊重し、プライバシーの確保を心掛け対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話の中で、その方の思いや希望を聞き出来るだけ自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	こちら側のペースで行ってしまうこともあるが、出来るだけ利用者様のペースを大切に希望にそって支援するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしくいられるよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	行事食で出前の日があり好きなものを注文して頂いたり、一緒に準備や片付けをしている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の食事の摂取量や水分量を把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、個々の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツ使用でも本人の希望でトイレに行ったりと自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	野菜の多い食事や水分を多く摂るよう支援している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日は決まっているが、体調や本人の希望によりずらしたり時間などは好みの時間帯を伺うなどしている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣や時々の状況に応じて安眠・休息の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の理解をして、内服介助をし現状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の生活歴の把握に努め楽しみや気分転換が出来るよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出するのに適した季節には外出支援していたが昨今のコロナで現況は出来ていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	全員ではないが持っているいる人もいるがコロナ禍で外出できずにいる。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をしたい等の希望は本人の希望通りにしている。年賀状は支援し毎年親近者に送るようにしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来るだけ居心地の良い空間になるよう努めている。季節感のある掲示物をしたりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	狭い空間ながらも御利用者様同士で思い思いに過ごせるように配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の馴染みの物等、持って来て頂いている。居心地よく過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	狭い居住なので動線を整えシンプルにわかりやすくし自立した生活が送れるよう工夫している。		

2021年度

事業所名　グループホーム　シエル　西横浜

作成日：　2021年　11月　27　日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域密着したサービスの不足	外出できる状況になれば、近隣商店街への買い物機会を増やしていく。	買い出し、散歩などで外出機会を増やす。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月